



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



樓様比翼哉

13  
2378  
243



遠3  
2378  
249

襖つま

摸も

比ひ

翼よくの

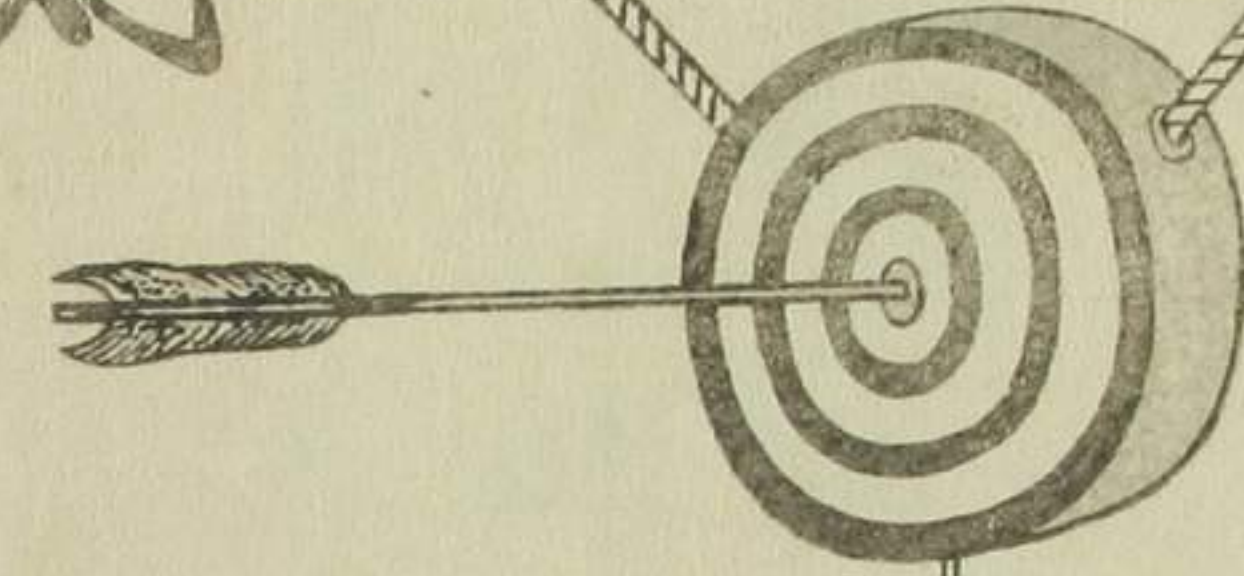
様よう

天保九

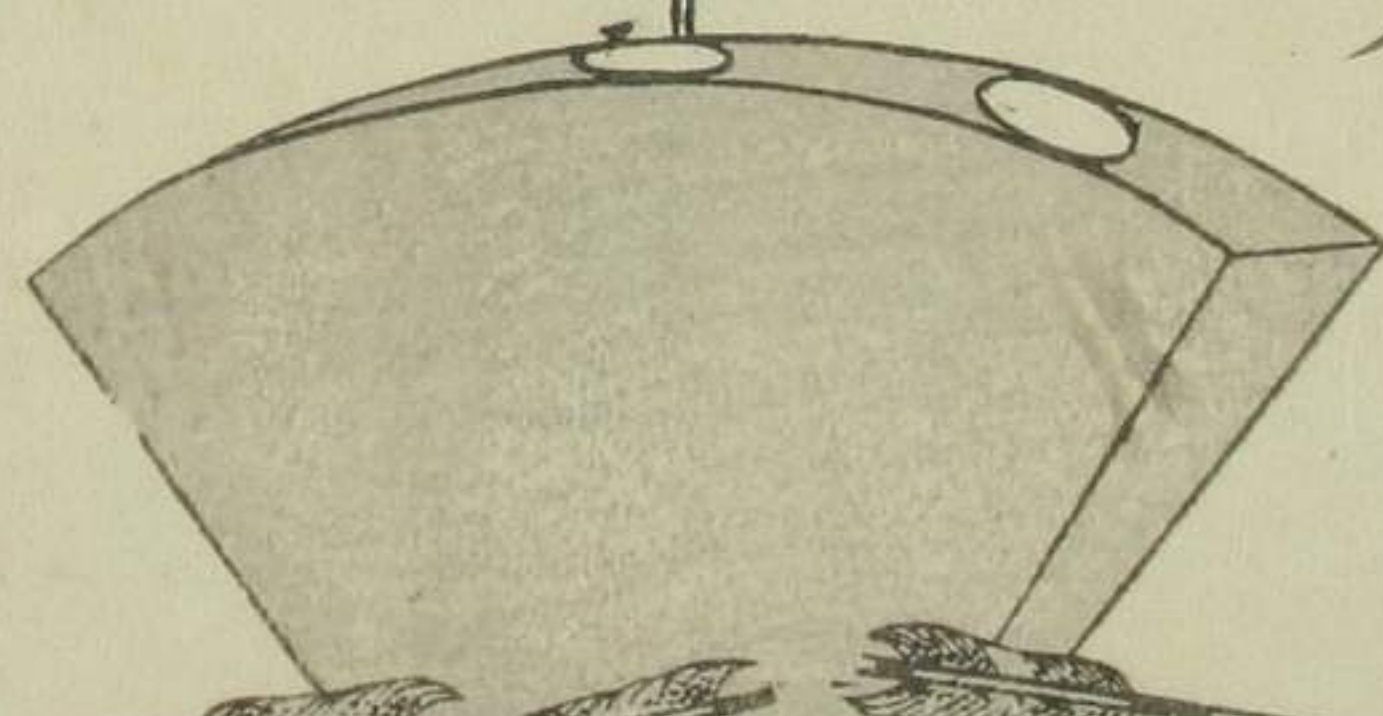
戌新板

上の巻

紫むらさき



甘泉堂梓



付万

毛屋け

中の巻

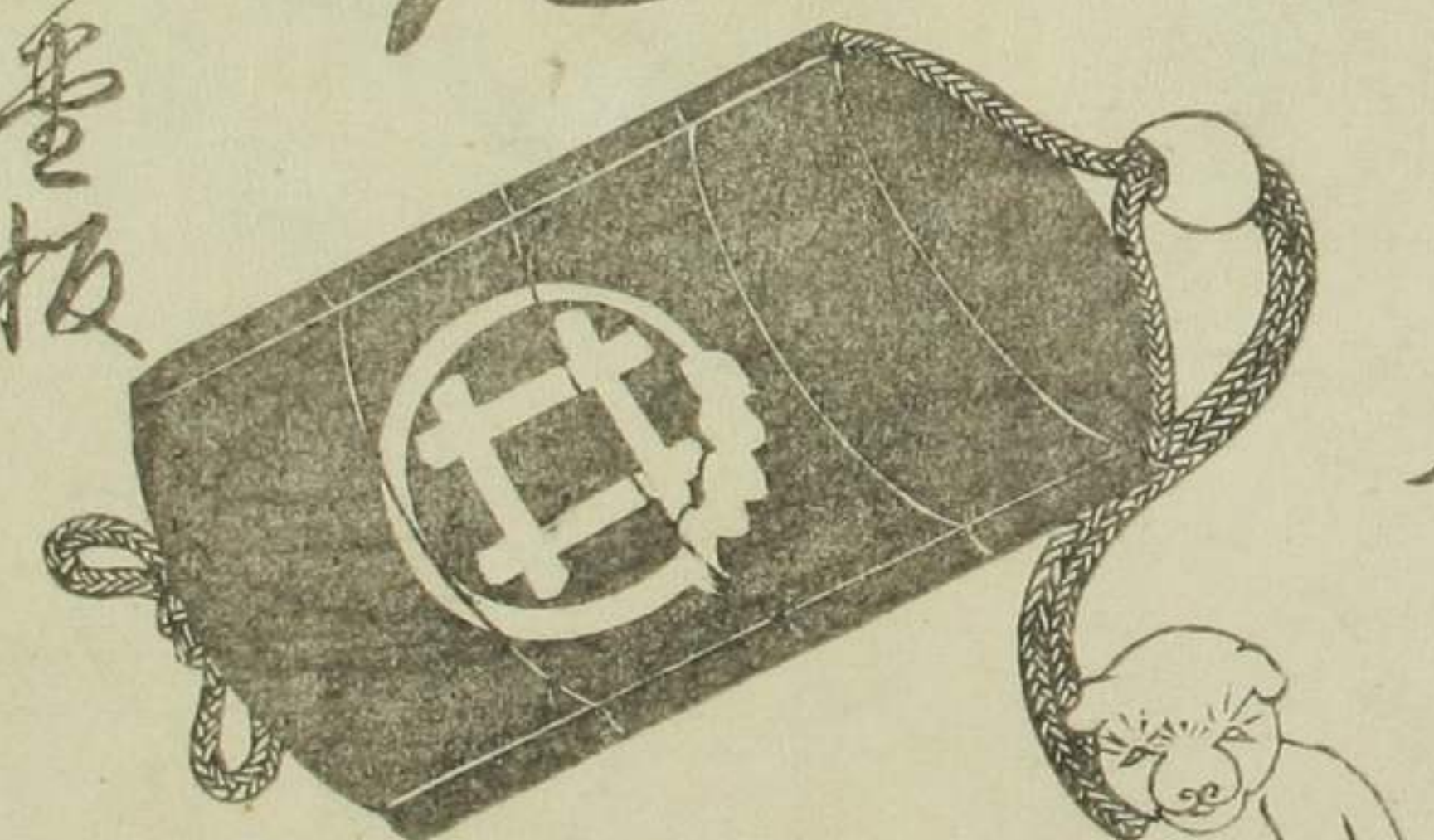
冠かんむりの

甘あまきり

梅うめ香か化け

芳よし重しず画ゑ

甘泉堂板



墨春亭梅齋作  
歌川芳重画

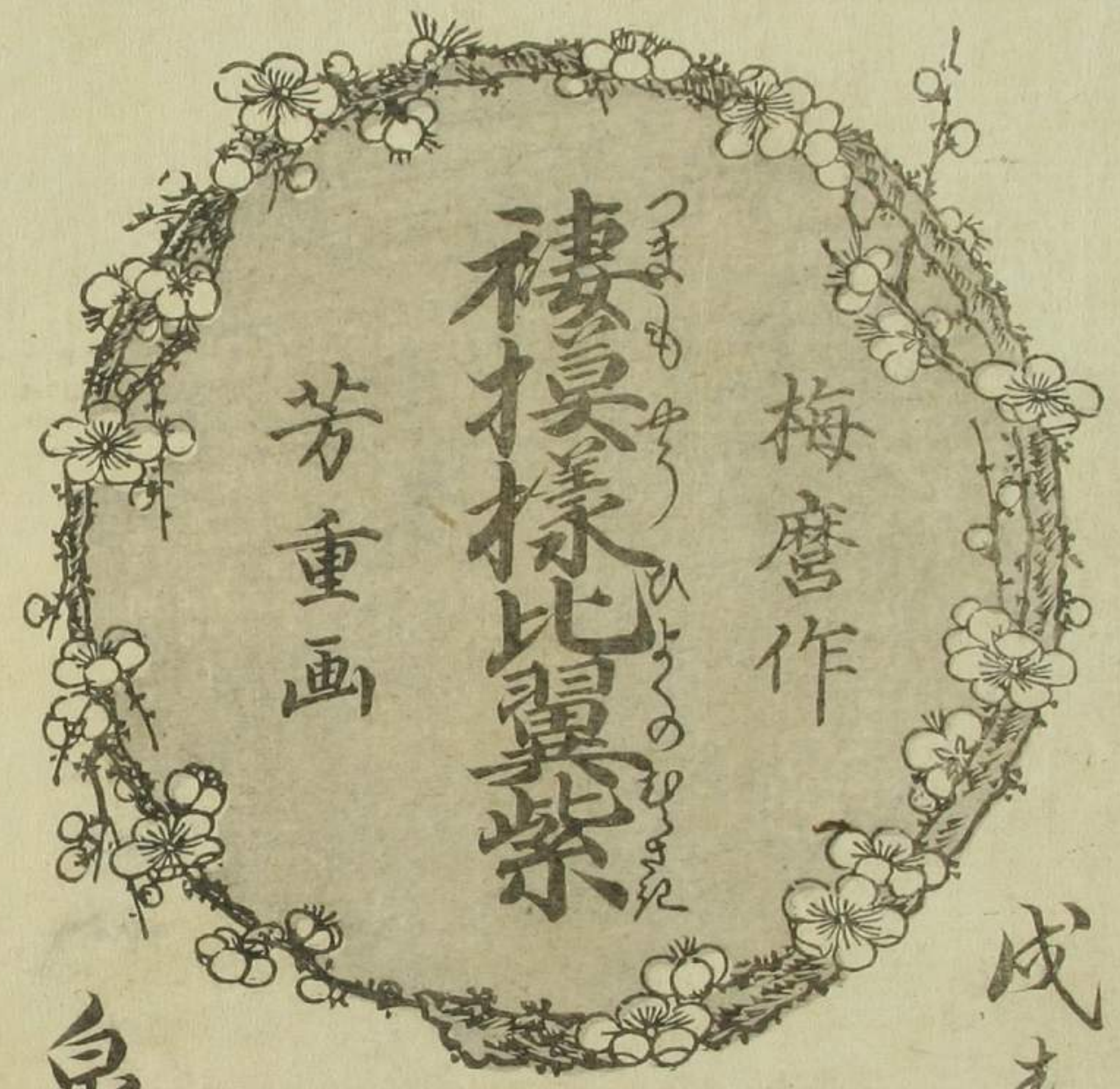


戌泰新板  
甘泉堂梓



趣向も古着の比翼塚その引書説とてり出ても介をそふ縫の仮字  
 りひと華の族おやの張あげさて是くら校合の上繪るふとて  
 ちてかち川のまづ館場の固辞つけ印南が詞の花れ香やか八重  
 梅が後咲へと氣とる弓の矢場娘をいふ姿ハ難波津ふさくやの  
 雨小用くもの勝色みまる平井が射術ア似やあふりの快客  
 義理と恩ととちりつけ衣かてそぐりの絹賣があてうもなづあ  
 入相鐘音と良玄澗が名おひく鶉も化して鶯鳴の忠おのとづ  
 一念善心弥市夫婦が物語の古木ふ竹を継發行六冊續の二  
 反撰と高口と言とまのり利

天保九戌戌年孟陽  
 春廼屋梅磨



泉市板

下の巻

戌亥新梓



絹賣  
矢市

後  
寺石  
心  
加古川の家  
中  
澁川轉物  
心



矢市女房  
於時

悪棍  
微平

一匹の巻



ついで

濱若丸の  
異姓の  
伯父  
飾磨  
頭  
鬼貫

加古川の  
執権  
白柄充右衛門



則良  
後室  
真弓  
御前

四



加古川  
判官

五

























あつてはつていふはさき

十四

あつてはつていふはさき

十五











おのれはさういふにやうか  
おのれはさういふにやうか

おのれはさういふにやうか  
おのれはさういふにやうか

おのれはさういふにやうか  
おのれはさういふにやうか

おのれはさういふにやうか  
おのれはさういふにやうか



おのれはさういふにやうか  
おのれはさういふにやうか

おのれはさういふにやうか  
おのれはさういふにやうか

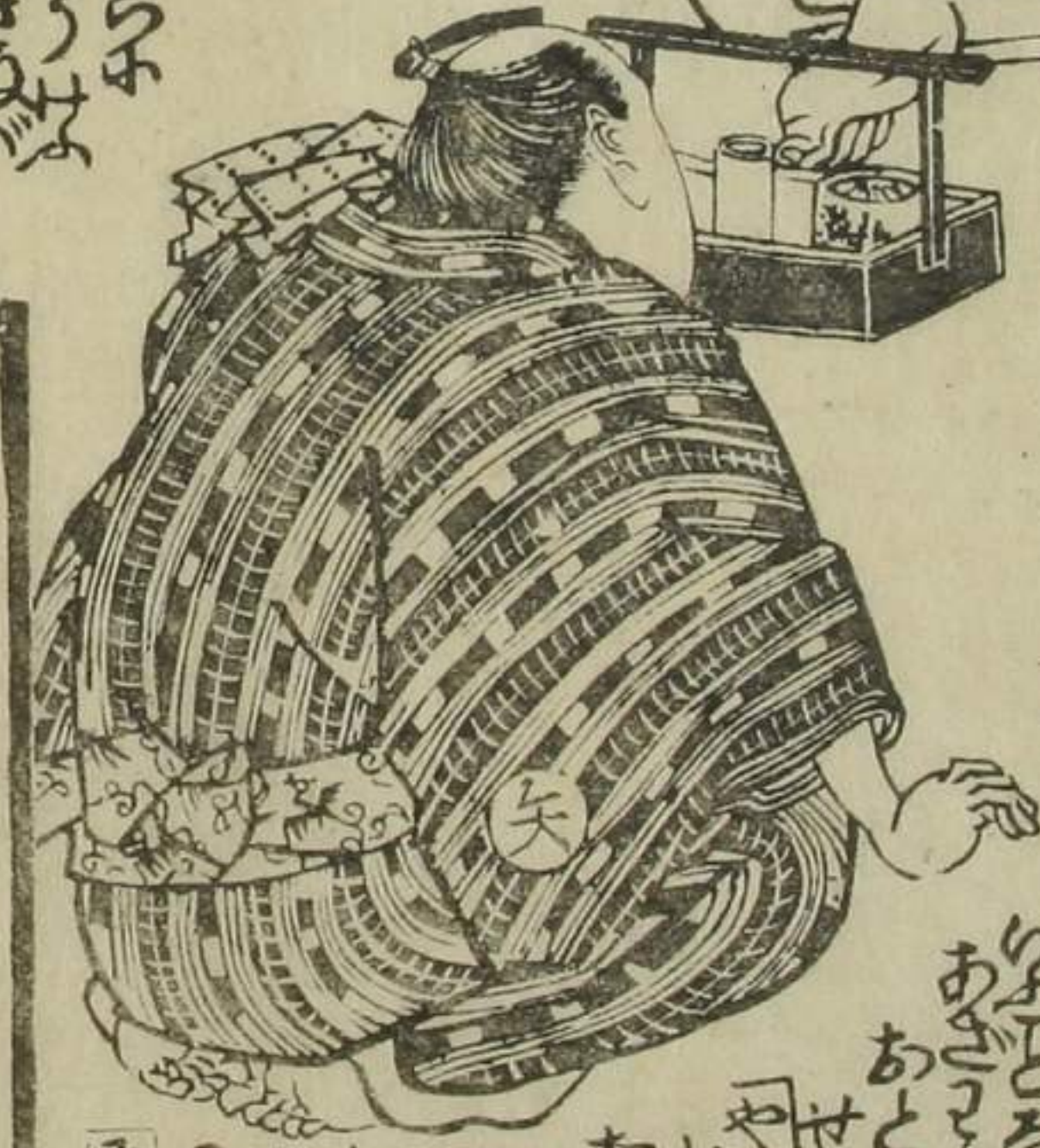


ついでにあらでんハさあが  
りくとかこつてついでにその  
ころからとびあつておれど  
ついでにあらでんハさあが  
りくとかこつてついでにその  
ころからとびあつておれど  
ついでにあらでんハさあが  
りくとかこつてついでにその  
ころからとびあつておれど



▲▲  
あつてあらでんハさあが  
りくとかこつてついでにその  
ころからとびあつておれど  
ついでにあらでんハさあが  
りくとかこつてついでにその  
ころからとびあつておれど

梅麻呂作



あつてあらでんハさあが  
りくとかこつてついでにその  
ころからとびあつておれど  
ついでにあらでんハさあが  
りくとかこつてついでにその  
ころからとびあつておれど

芳重画

あつてあらでんハさあが  
りくとかこつてついでにその  
ころからとびあつておれど  
ついでにあらでんハさあが  
りくとかこつてついでにその  
ころからとびあつておれど

四の巻  
あつてあらでんハさあが  
りくとかこつてついでにその  
ころからとびあつておれど  
ついでにあらでんハさあが  
りくとかこつてついでにその  
ころからとびあつておれど



左の上  
あつてあらでんハさあが  
りくとかこつてついでにその  
ころからとびあつておれど  
ついでにあらでんハさあが  
りくとかこつてついでにその  
ころからとびあつておれど

下

下





一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

【お茶屋】をいふこととてえんでは  
 かりとていふこととてえんでは  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり



【お茶屋】をいふこととてえんでは  
 かりとていふこととてえんでは  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり

【お茶屋】をいふこととてえんでは  
 かりとていふこととてえんでは  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり



【お茶屋】をいふこととてえんでは  
 かりとていふこととてえんでは  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり  
 たるのちりたるのちりたるのちり

十一

十二

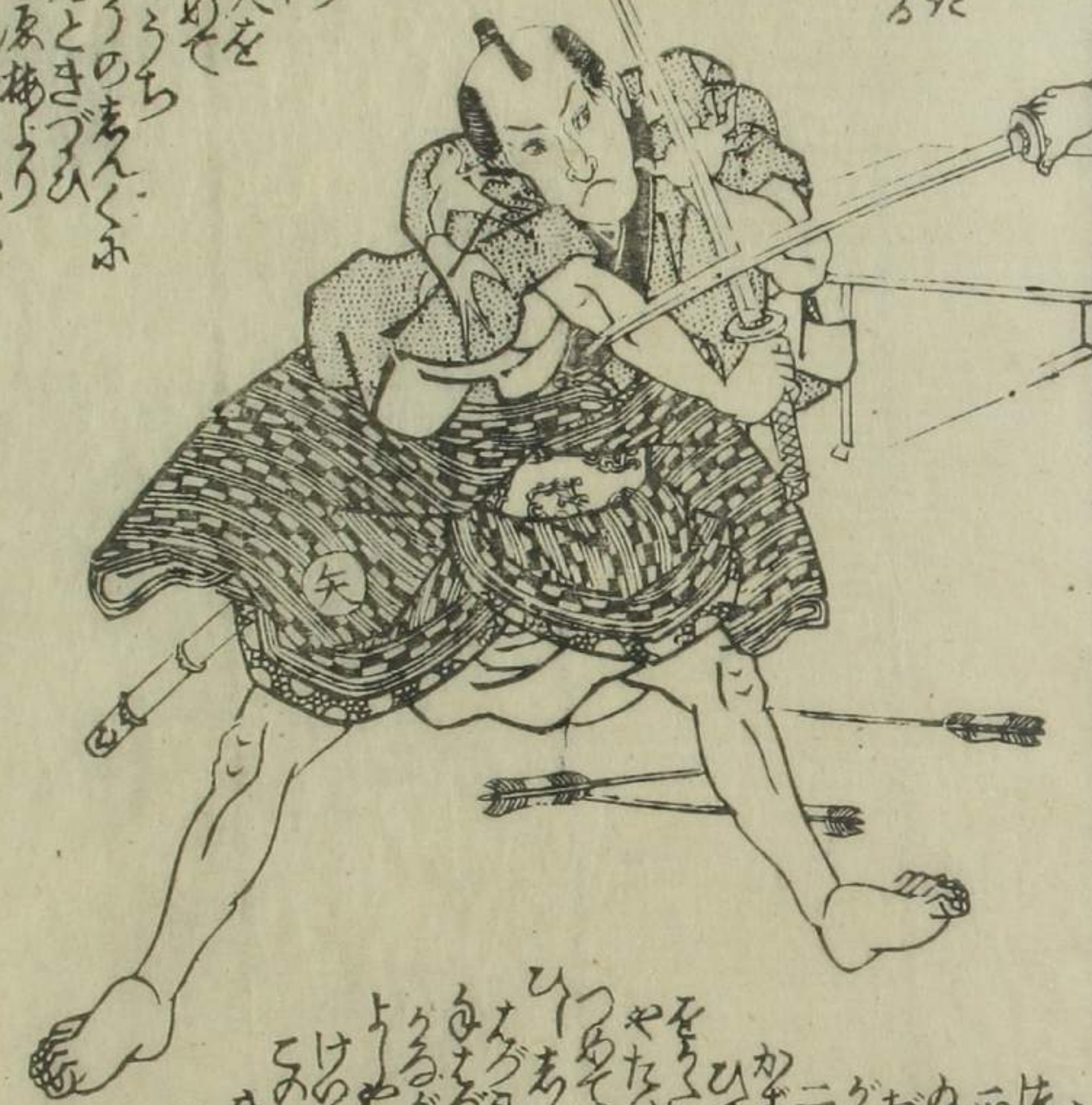








こんべんとやらが  
 のちふあろう  
 あれゆてとくと  
 うけあられはく死  
 てんりのをめぐり  
 とこまひのうち  
 まをすすまどさ  
 るがらその  
 りとあひま  
 のらあひま  
 てあやう  
 ひまゆめ  
 あま  
 やまの  
 うちふあえ  
 ありやトえけ  
 ますトええんハ  
 なるとかとまり  
 あまゆめとまり  
 よまゆめとまり  
 たりあけまをあめ  
 みあゆめとまり  
 こまゆめとまり  
 とこまゆめとまり  
 あまゆめとまり  
 えんとゆめとまり  
 せんゆめとまり  
 その大やうとまり  
 なるゆめとまり



あれがたうと  
 けえとがらうの  
 正八寸半の  
 ぬんとうらふの  
 たまゆめとまり  
 ぐうぐうの  
 二尺八寸ハ  
 かせ二十八  
 ひまゆめとまり  
 そまゆめとまり  
 やたゆめとまり  
 つあゆめとまり  
 ひまゆめとまり  
 ぬんとゆめとまり  
 うらゆめとまり  
 よまゆめとまり  
 けのゆめとまり  
 このあゆめとまり  
 きまゆめとまり  
 せまゆめとまり  
 衛のゆめとまり  
 ひまゆめとまり  
 ちまゆめとまり  
 ちまゆめとまり

七八

つぎ

ちさんふあ  
 ちさんふあ  
 ちさんふあ  
 ちさんふあ  
 ちさんふあ  
 ちさんふあ  
 ちさんふあ  
 ちさんふあ  
 ちさんふあ  
 ちさんふあ



まゆめとまり  
 あれゆて  
 よりまゆめ  
 源流のゆめ  
 ぬんとゆめ  
 まゆめとまり  
 ちまゆめとまり  
 ちまゆめとまり





つぎ「さんどがあのふふ大せのめ  
てまどきりふせるまどたて  
わつらどめをたてめとて  
ひらぐちうあいのふ  
あつたすあくわん  
たらのをのころまど  
うちまど  
と甘のひつふ  
あさあり  
ていん  
こま  
ら  
と  
つまびら  
くおまう  
あけてくぞんまればも  
つらふまど作若のま  
らぬふまどまどまど  
らぬふまどまどまど  
つまんでくのまどをり  
あんせあるまどまど  
あれんまどまどまど  
あむまどまどまど  
あむ下のまどまど  
てんゆまどまどまど  
まどまどまどまど  
まどまどまどまど  
まどまどまどまど



さそあま  
あまひら  
えんま  
わすひや市

さそあま  
あまひら  
えんま  
わすひや市



さそあま  
あまひら  
えんま  
わすひや市

黒春亭梅磨作



つぎにあらきをわらうびをあらう  
 そのうちなんばあつちちの  
 ひきあひのやうきまあひよく  
 つとあま君よりわらうびを  
 あかりまきくちう  
 きんをつくせうふ  
 りんてあつちのうふ  
 かたうありてあや  
 福んまら白つ  
 とあひやく  
 どのそらま  
 母ありあふ  
 こころを  
 たくやあ  
 福とらうわ  
 まく男女  
 あまこのまよ  
 まうけ  
 すまらぐ  
 さえけり  
 めで

せけんわら  
 美艶仙女香  
 黒油美玄香  
 右あまもわら  
 らは内用ね  
 上まの  
 坂本氏  
 製

歌川芳重画

寐小便の大奇薬

一包代銭三百銅

此清茶いりほど年久後病癒よても大人小児男女  
 如き下包そ治るる奇とやいん妙とやいん是あま  
 徳人のどに用るふ一人も治せばといふそのあ 徳人  
 のまめは海をせよむろ西海内ういんの男女寐小便よても  
 しむそのをくらふ世中よのなか此清茶とちぢひあもいりり  
 なく奇効ききう良方りやうほう煎飲せんぎんの心をせげけりひてそ病苦びやくをたまを  
 めいへ

本家調合所

書物屋 北林堂 西宮 弥兵衛

江戸中橋廣小路町

